

54 趾皮膚炎（旧 趾乳頭腫症）

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<div style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(1) 疫学調査</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(2) 臨床検査</div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%);"> (病変部皮膚) </div> </div> </div>
病性鑑定施設	<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(3) 病理組織検査</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> (+) ↓ </div> <div style="text-align: center;"> (-) ↓ </div> </div>
判定・結果	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">↓ (+)</div> <div style="text-align: center;">↓ (-)</div> </div>
最終判定	疫学調査、臨床検査の結果を基に、病理組織検査の結果を併せて総合的に判断する。
その他	

→類似疾病検査

- ① 趾間腐爛
- ② 36 牛乳頭腫

(1) 疫学調査

- ① 経産乳牛の後肢に好発する。
- ② フリーストール飼育牛に多発する。
- ③ 高温多湿な時期での発生が多い。
- ④ 再発もみられる。

(2) 臨床検査

- ① 病変の多くは後趾蹄球に隣接する趾間隆起部付近に形成
- ② 疼痛による中度から強度の跛行、食欲減退、体重減少、乳量減少
- ③ 疣状の乳頭突起物形成がみられ、潰瘍を伴うものもある。
- ④ 病変部は特有の腐敗臭を放つ。

(3) 病理組織検査

- ① 表皮の錯角化と過形成が顕著
- ② Warthin-Starry 染色で角質細胞・有棘細胞層に多数のらせん状菌が確認される。
- ③ 透過型電子顕微鏡による観察で、らせん状菌にはスピロヘータ特有の軸糸がみられる。

その他:

(注) 病因

- ① 病変部に普遍的に観察される複数の未分離・未分類のトレポネーマが原因と考えられている。PCR にて病変部位から複数のトレポネーマ属菌の特異遺伝子を検出することは診断の一助となる。
- ② 数種の新種トレポネーマの分離報告はあるものの、これらを用いた病変の再現は非常に難しい。

(参考文献)

・芝原友幸: 獣医感染症カラーアトラス(見上 彪監修)、第2版. 146-148、文永堂出版、東京 (2006).